

実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 10 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	江戸川区立一之江小学校
代表者名	伊藤 秀一
プラン全体のタイトル	備えよう、まさかのために！ 作ろう、一之江防災プラン！
電話番号	03-3651-2969
メールアドレス	ichinoes@edogawaku.ed.jp
実践団体の説明	<p>本校は荒川と中川に挟まれた0メートル地帯に位置し、浸水等の災害の他、地震の際には建物に大きな被害が出るのが想定されている地域です。防災チャレンジプランの取組を通して、子供たちが自らの命を守るための防災意識を高めるとともに、学校と保護者、地域が一体となって不測の事態に対応できる実践力を高めることを目指して取組を進めてきました。新型コロナの影響で止まってしまっていた、学校、保護者、地域、行政の連携を深めるための取組を、今後も協働して進めていきたいと考えています。</p>
所属メンバー	<p>校長：伊藤秀一 副校長：鈴木宏美 主幹教諭：伊藤貴光 主幹教諭：上田功司</p>
活動地域	<p>東京都江戸川区一之江地区 (一之江小学校の学区域を中心とした町会、関係機関等)</p>
活動開始時期・結成時期	1953年創立(69周年)
過去の活動履歴・受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 東京都教育委員会オリンピックパラリンピック・レガシーアワード校、 ・令和4年度 江戸川区教育課題実践推進校

プラン全体の概要	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none">1. 「まさか」の状況にすぐに対応できる具体的な「指針」(ペーパーベース)と、「行動」(活動ベース)をセットにした「一之江防災プラン」を構築する。2. 荒川及び中川に挟まれた立地から、台風や大雨、津波等による河川の氾濫や、地震による被害が想定されるため、学校(児童・教員)と保護者・地域・行政が連携して防災意識を高め、災害時に対応できる力を伸長するとともに、命の確保が安全にできるよう見通しをもたせる。 <p><期待される成果></p> <ol style="list-style-type: none">1. 「一之江防災プラン」の作成、配布を通して、実際の災害が起こった際に適切な対応・行動がとれる。<ul style="list-style-type: none">・実態に即した防災プランを明確にすることにより、共通理解が図られる。・行動の見通しがもて、安心感が醸成される。2. 学校・保護者・地域・行政が、連携して防災に備えることができる。<ul style="list-style-type: none">・情報交換会を通して、日頃から学校内外の組織、人々との連携が密になる。・学校の授業を通して児童、教職員の意識化と、参観を通して、保護者等の意識の向上が図られる。・学校が避難所となった際の行政職員、地域住民等の初期対応の訓練となる。
----------	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間計画立案	カリキュラムの確認	保護者会
5月	協力体制構築	イベント企画	消防写生会
6月	区役所、消防署との調整	避難所連絡会準備	校外学習、避難所連絡会
7月	区役所、消防署との調整	1学期活動のまとめ	地域学習
8月	区役所、消防署、町会、PTAとの調整	イベント準備 避難所開設訓練準備	防災イベント、 避難開設訓練
9月	荒川治水資料館との連携	講演会準備	防災講演会、授業公開
10月	消防署、町会との連携	学習発表会準備	地域学習
11月	消防署、町会との連携	学習発表会準備	学習発表会、授業公開
12月	活動資料作成	2学期活動のまとめ	校外学習
1月	報告資料作成	資料印刷	インタビュー
2月	取組のまとめ	3学期の活動のまとめ	活動報告会
3月	次年度計画検討	次年度カリキュラム準備	活動のまとめ

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>○地域をよく知ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践を通して、指導に当たる者が地域の理解が不足していることを感じた。このことに気付いたことは、課題でもあり成果でもある。 <p>○関係機関との連携を密にすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、学校と地域、関係機関との連携が希薄になっていたことを感じた。今回の実践が相互の連携を深める入り口になったので、今後の連携を密にしていきたい。
今後の活動予定	<p>○次年度計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動について振り返りを行い、次年度の年間活動計画及びカリキュラムの作成を行う。その際、教科や領域を超えたクロスカリキュラム、行事の関係付け、関係機関との連携を一層強化していく。

実践したプランの内容と成果

記入日	2023年1月10日（22年度のチャレンジプラン）
実践団体名	江戸川区立一之江小学校
実践番号	1
タイトル	備えよう、まさかのために！ 作ろう、一之江防災プラン！
実践担当者のお名前	伊藤 貴光

実践にかかった金額	20万円
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	2022年4月～2023年3月
実践の所要時間	30日
実践の運営側で動いた人の人数	50人
防災教育の対象者の属性	小学生（低学年）・小学生（高学年）・教職員/保護者/PTA・地域住民/防災関係者
防災教育の対象者の人数	約450人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都江戸川区一之江
実践を行った具体的な場所	一之江小学校（校庭、体育館、教室） 地域の公園・道路、本所防災館、荒川治水資料館 等
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	江戸川区役所危機管理課 江戸川消防署、消防団

達成目標	<p>○「一之江防災プラン」の作成、配布を通して、実際の災害が起こった際に適切な対応・行動がとれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に即した防災プランを明確にし、共通理解を図る。 ・行動の見通しをもち、安心感の醸成につなげる。 <p>○学校・保護者・地域・行政が、連携して防災に備える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや発表会等を通して、学校内外の機関、人と人との連携を密にする。 ・横断的な学習を通して児童、教職員、保護者の意識の向上を図る。 ・学校が避難所となった際の行政職員、地域住民等の初期対応の訓練とする。 	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに

	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p><一之江防災プランの作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月～6月：防災プランの骨子作成 ・7月～9月：防災プラン概要の作成 ・10月～12月：防災プラン概要の完成 防災プラン（詳細版）の作成 ・1月～2月：防災プラン（リーフレット）の完成・配布 防災プラン（詳細版）の完成、関係機関との共有 <p><防災に関する授業の実施></p> <p>○1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科・理科と関連付けた授業の実施 ・東京防災、防災ノート（小学校1～3年生版、4～6年生版）を活用した授業の実施 ・消防写生会の実施 4月25日（月） ・荒川治水資料館の見学 6月2日（木） ・防災教室の実施 6月10日（金） ・毎月の避難訓練（一斉下校の実施） <p>○2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する授業参観・講演会の実施 9月10日（土） ・社会科・理科と関連付けた授業の実施 ・学習発表会の実施 11月17日（木）～18日（土） ・毎月の避難訓練（保護者引き取り訓練、垂直避難の実施） <p>○3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開の実施 ・毎月の避難訓練（二次避難の実施） <p><イベント等の実施></p> <p>○1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防写生会の実施 4月25日（月） 防災教室（起震車、煙体験ハウス、消火訓練）の実施 6月10日（金） ・江戸川区と連携した避難所連絡会の実施 6月10日（金） <p>○夏休み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署、PTA、地域と連携した防災イベントの実施 8月24日（水） ・江戸川区と連携した避難所開設訓練の実施 8月24日（水） <p>○2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観・講演会の実施 9月10日（土） ・青少年委員会と連携した防災訓練 11月13日（日）※中止 ・学習発表会の実施 11月17日（木）～18日（土） <p>○3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開の実施 1月21日（土） 	
得られた成果	<p>○防災イベント「一之江防災チャレンジ」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、地域、行政の連携体制が深まった。 <p>○防災をテーマとした学習発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの防災に対する意識が高まった。 <p>○「一之江防災プラン」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集、リーフレットを作成し、非常時対応の見通したもてるようになった。 	

	○防災講演会 ・保護者の認識が深まった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	○地域をよく知ること ・実践を通して、指導に当たる者が地域の理解が不足していることを感じた。このことに気付いたことは、課題でもあり成果でもある。 ○関係機関との連携を密にすること ・コロナ禍の中で、学校と地域、関係機関との連携が希薄になっていたことを感じた。今回の実践が相互の連携を深める入り口になったので、今後の連携を密にしていきたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	江戸川区役所危機管理課
関係者の説明	実践を行うにあたっての相談や、避難所連絡会、避難所開設訓練の主催、ハザードマップ等の資料提供をしていただいた。
関係者の連絡先	03-5662-1992

関係者の名前・団体名	江戸川消防署
関係者の説明	実践を行うにあたっての助言や、防災イベントで、消防車をはじめとした機材の貸し出しと運営協力をしていただいた。
関係者の連絡先	03-3656-0119

関係者の名前・団体名	国土交通省荒川下流域河川事務所
関係者の説明	保護者向け講演会で、荒川の治水について分かりやすく説明していただいた。校外学習で訪問した。
関係者の連絡先	03-3902-2311

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	子供たち
伝えたい内容	自らの命を守るすべを身に付けること